



申3号「中編成ワンマン運転の拡大について」に関する解明申し入れ 交渉開催！～その②～

4. 中編成ワンマン運転の拡大を実施しても、安全・サービスレベルを維持・向上できる根拠を明らかにすること。

- (組合)中編成ワンマン運転に必要な設備や安全確保に必要な設備について具体的に示すこと。
- (会社)ホーム検知装置や車載ホームモニタによって安全が低下するとは考えていない。今後設備の増設等は考えていない。
- (組合)水戸線ワンマン運転導入の際、車載カメラの清掃について議論した。検証結果を示すこと。
- (会社)車両にメラミンスポンジを搭載して清掃を行っている。モニタが見つらい場合は前後の切替や目視でのドア扱いも指導している。
- (組合)他支社ではワンマン運転導入に伴い、減車等により列車混雑が問題になった。ワンマン運転の拡大に伴い、列車本数の見直しや編成両数の見直しは検討しているのか。
- (会社)現在調整中である。

5. 「お客さまが求める輸送サービス」について、具体的な考え方を明らかにすること。

- (組合)「お客さまが求める輸送サービス」について示すこと。
- (会社)「安全・安定輸送のレベルアップ」をベースとして、お客さまのニーズを把握し、輸送サービスを提供する。また乗り換え時間の短縮等を行い「シームレスな移動」「総移動時間の短縮」、「ストレスフリーな移動」の実現につなげていく考えである。
- (組合)自治体と連携することや需要に合わせた臨時列車等の増発について検討していることを示すこと。
- (会社)バスやタクシーと連携して一元管理する Mass の試験的な運用を各地で行っている。地域と密着していくことが重要である。茨城プレDCがスタートし、来年は茨城DCである。茨城の活性化に向けて今まで以上に行っていく考えである。

6. 中編成ワンマン運転の拡大するにあたり、車いす対応や遺失物の取り扱いを明らかにすること。

- (組合)昨年度、大津港駅の営業体制の変更について団体交渉を行った。介助が必要なお客さまの対応について列車が遅れても乗務員が対応する場合がありますと議論した。ワンマン運転の拡大にあたり、介助が必要なお客さま対応について検討していることを明らかにすること。
- (会社)水戸線ワンマン運転の導入にあたり議論を行ったとおり、お客さまを最前部に案内するのが基本である。駅社員と乗務員は対面で引き継ぎを行う。介助が必要なお客さまの対応について考えは変わらない。
- (組合)遺失物の取り扱いについて走行中は車掌が預かることがあった。今後の対応について明らかにすること。
- (会社)遺失物は走行中にお客さまから預かることは出来ない。駅に停車後、お客さまとやりとりをする。

